広報

きたかた

2014.9月号
No.105



今月のおもな内容

少年の主張喜多方市大会……②
市町村対抗軟式野球大会……⑦
地域ぐるみで有害鳥獣被害をなくそう……⑧
写真で見る地域の話題……⑭
新庁舎への移転始まる……㉔

平成26年度

少年の主張喜多方市大会

平成26年度少年の主張喜多方市大会が８月４日喜多方プラザ文化センターで開催されました。

市内小中学校から推薦された小学生17名、中学生11名の主張発表および表彰と、「家庭の日」ふれあい標語優秀作品の表彰が行われました。



平成26年度少年の主張審査結果および標語優秀者（敬称略・発表順）

小学生の部

▽**最優秀賞**　宇内 愛結（第二小6年）、落合 勇斗（第一小6年）、清野 花香（高郷小6年）

▽**優 秀 賞**　風間 大思（豊川小6年）、佐藤 梨乃（上三宮小6年）

▽**優 良 賞**　穴沢 凜子（山都小6年）、小椋 史己（関柴小6年）、小野寺 孝久（第三小6年）、佐藤 瑛美（塩川小6年）、佐藤 莉々（熊倉小6年）、鈴木 虹々（加納小6年）、田中 純可（駒形小6年）、外島 大地（堂島小6年）、中川 楓彩（姥堂小6年）、中島 慎之助（松山小6年）、福王寺 郁哉（熱塩小6年）、宮澤 瑠南（慶徳小6年）

中学生の部

▽**最優秀賞**　後藤 潤希（高郷中3年）、齋藤 優望（第一中3年）、津村 美花（塩川中3年）、富樫 聖怜奈（第一中3年）

▽**優 秀 賞**　大竹 諒（塩川中3年）、川口 絢也（第二中3年）、小林 明夏（会北中3年）、邉見 菜月（山都中3年）、眞壁 日向（第三中3年）、村田 千夏（第三中3年）、山本 衿香（第二中3年）

「家庭の日」ふれあい標語表彰

▽**最優秀賞**　塚原 優深（第一小5年）、井上 結貴（第一小6年）

▽**優 秀 賞**　佐藤 真子（第二小6年）、小椋 涼介（関柴小5年）、小林 佳菜（関柴小5年）、齋藤 光（熊倉小1年）、園部 あおい（加納小1年）、関本 雄太（堂島小5年）、関本 悠太郎（堂島小5年）、渡部 飛龍（堂島小6年）、和田 俊政（高郷小1年）、高橋 小春（高郷小5年）

中学生の部最優秀賞作品

心で聴く

高郷中学校　3年　後藤　潤希



今、私はとても楽しい日々を送っている。失敗もあるが、穏やかに過ごしている。何となく先が読めるからだ。昔から私は周りの人から勘が良いと言われてきた。先を読むのが得意で、友だちや家族の気持ちがわかる。自分の勘に自信を持っていた。

それがなぜなのか私にはわかっていた。私の左耳が聞こえないからだ。気付いたときにはもう当たり前だった。普段はあまり不自由に感じないが、慣れない場所では人の声がどこから聞こえてくるのかわからない。でも、それは些細なことだ。しかし、ずっとある疑問を持っていた。なぜ自分は今まで不自由に感じてこなかったのだろうか。

先日、左耳のことを母と話した。両耳が聞こえる母に、

「もし、俺の左耳が聞こえていたら、どうだったかな。今より楽しかったかなぁ。」

と聞いた。すると母は、

「それは考えたことがないな。でも、多分今のような楽しい人生は送ってこられなかったんじゃない？」

と答えた。私は少し驚いた。母は今の私の生活を「楽しい人生」と思っていたのだ。

「だって、お母さんから見たら潤希はとっても楽しそうだよ。『潤希は左耳が聞こえない』っていうんじゃなくて、左耳が聞こえないっていうところも含めて潤希なんじゃない。」

その時、あることを思い出した。

それは昨年の文化祭。仲の良い先輩や同級生と一緒に光を使ったダンスパフォーマンスを披露することになった私は、毎日一生懸命練習した。音楽に身を委ね、汗をかきながらリズムを刻んで体を大きくゆらすと、気持ちが高ぶって、どんなに踊っても疲れなかった。

中間テストの直前だった。いつものように教室で踊っていると、友だちが近寄ってきて言った。

「ねえ、テスト前なのに何やってんの。勉強しなよ。わからないの？」

楽しすぎて周りが見えなくなっていた。私が自信を持っていた「勘」がはずれた。

帰り道、「わからないの。」と言われたことをまた思い出した。友だちはわざわざ近寄ってきて言った。ちゃんとわかるように伝えてくれたと気づいた。うれしかった。

そして本番。暗いステージの上で色とりどりのケミカルライトを激しく回しながら体全体で表現する楽しさ。ダンスが終わった時、観客席から大きな歓声が起こり、そしてそれは鳴り止まない拍手と共に、うねりのように私に伝わってきた。確かに左耳は聞こえないはずなのに、自分の中心に会場のゆれが届く。それは私の鼓動と連動するようだった。みんなの笑顔も見えた。

「喜んでくれた。みんなの気持ちが聴こえる。」

当たり前のことなのに、言いようのない大きな幸せを感じた瞬間だった。

今までの人生の中で「音」は、聞こえない左耳の分だけ、私の意識を大きく占めていた。でもこの左耳のおかげで、「聴く」ということが私にとって特別になった。いつの間にか「行動や笑顔から聴く」ようになった。誰かの手の動き、体の揺れがそのまま私にとっては「音」だった。

それからいつも私の近くに、当たり前のようにみんながいてくれた。私の平凡な毎日は、周りの人が「私」を理解していてくれたおかげで成り立っていた。人の温かな思いが私の心に聴こえてきたように感じる。自分の周りにある大きな存在に気付いた。

耳は言葉を伝えてくれるが、聞こえても意味や思いがわからなければただの音のままだ。人の思いは単なる音ではなく、心に響くものだとようやくわかった。私は勘だけでなく、思いを

通じ合わせながら生きている。この左耳と私の周りの人たちに感謝したい。そして誇りに思う。昨日聴いた言葉も、今話しているこの言葉も、私の人生を作ってくれる。だから私は人の思いを心で聴いて生きていきたい。そして私もまた、誰かの心に届くように言葉を伝えたいと思う。

「輪」を広げよう

第一中学校　3年　齋藤　優望



「日本を尊敬します」

今年ブラジルで開催された、四年に一度のサッカーの祭典、ワールドカップ。試合の勝敗は、連日ニュースでも取り上げられ、世界中が盛り上がりました。日本代表チームは惜しくも予選で負けてしまいましたが、その残念な結果を吹き飛ばすようなニュースが流れました。それは日本人のサポーターが、日本代表のチームカラーである青い色のゴミ袋を持って、試合終了後のスタジアムのゴミ拾いをしたというニュースでした。自分たちの出したゴミをスタジアムに置いて帰る人が多い中、日本人のサポーターは協力し合って黙々とゴミを拾っていました。誰が始めたのか分かりませんが、自然と活動の輪が広がっていったのでしょう。「サッカーファンは、大事な試合に負けるとゴミを投げ、スタジアムを汚すことが多い。しかし、日本のサポーターは善意の精神を忘れなった。」と世界各国でこの活動が賞賛されました。「日本人を尊敬します」という声が多く聞かれるようになり、次第に外国人サポーターも一緒にゴミ拾いをするようになっていきました。私はこの様子を見て、一人の小さな力が大きな輪になり、国境を越えた感動を呼ぶことができるのだということにとても感動しました。

言葉も通じない者同士が、心を通わせることができるというのは、本当に素晴らしいことだと思います。ワールドカップでのゴミ拾いも、違う文化を持った人々が同じ気持ちになり、同じ目的に向かっているからこそ、協力し合って活動ができたのです。国と国との超えた繋がりを感じられたゴミ拾い活動は、世界平和に向けた一筋の光になるように思われます。みんなが幸せに暮らすために、国境を越えた心の繋がりを大切に、世界に平和の輪をつくるべきだと思うのです。

先日、私は総合的な学習の一環として、地域でできるボランティア活動を行いました。私は学校の近くの公園でゴミ拾いを行いました。学校に戻ってからは、全員の拾ったゴミを分別する仕事を手伝いました。私一人が拾ったゴミは、ほんの少しでしたが。みんなの拾ったゴミを集めるとかなりの量になり、これだけ地域がキレイになったのだと嬉しくなりました。

また、私たちの学校では生徒会が「仲間の輪・地域の輪・思いやりの輪」をスローガンに掲げて活動しています。その中で企画された『千羽鶴プロジェクト』は、東日本大震災の被災者の方々のために、復興の願いを込めて生徒全員が鶴を折り、千羽鶴を作ろうというものです。私たちも三年前に同じ震災を経験し、同じ願いと思いやりの気持を持って、一羽一羽の鶴を折っています。千羽の鶴ができあがった時には、学校の生徒全員でやり遂げた達成感とともに、大きな仲間の輪ができたように感じました。また、これから被災地に届けられたときには、お互いの地域の幸せを願う、思いやりの輪が広がっていくだろうと思います。

ゴミ拾いボランティアも、千羽鶴プロジェクトも、一人ひとりの小さな力が集まって、大きな成果につながっていきます。小さな願いから、仲間や地域へとつながる大きな輪ができるというのは、とても素晴らしいことだと思います。仲間や地域の輪を、さらに国全体や世界中に広げ、笑顔あふれる世の中にしていきたいと思います。そのためにも、私たち一人ひとりが自分にできることを考え、発信していくことが大切なのではないでしょうか。小さな力でも、大きな輪をつくることに繋がるかもしれないのです。

相互尊重

塩川中学校　3年　津村　美花



「ちょっとそこ、どいてもらえません？」

ついこの間、ディズニーシーで言われた言葉です。私はランド・シーともにディズニーリゾートが大好きであり、よく足を運びます。このような言葉を言われたのも、初めてではありませんでした。

その日は約四か月ぶりに行くシーであり、日にちが決まったころから毎日毎日そのことばかり考えていました。朝11時、エントランスをくぐりました。シーにいる、ただただそのことがうれしく、心を浮き立たせました。

時間がめぐるのは早いもので、時計は午後3時30分を回っていました。あと一時間後には今日一番のめあてのショーが始まります。私は絶対に最前列で見たいと思い、ショーが行われる広場へと向かいました。暑さのせいもあり、人はまばらで、すぐに最前列に座ることができました。

待つことは嫌ではないので、今日とった写真を見かえしたり、本を読んだりしながら過ごしていました。そのとき、頭の上から一言、

「ちょっとそこ、どいてもらえません？」

と言葉が放たれました。一瞬、時が止まったように感じました。そのあと、私が

「なぜでしょう。」

と尋ねたら、そう言った人とその友人らしき人はきまりが悪そうに去って行きました。

今でも時おり、この体験を思い出します。なぜ「ちょっとそこ、どいてもらえません？」なんて言われてしまったのでしょう。少なくとも、相手を不快にさせてしまったから言われたわけで、その言葉の深い意味までは追求しません。しかし、その言い方はないだろうと思いました。言葉にとげがあるし、人を見下している要素が入っています。この人を見下す行為が、差別へと変わるのです。

なぜ人は人を見下してしまうのでしょうか。人は一人では絶対に生きていけません。必ず尊敬できる人や仲間が必要です。仲間と一緒にいても、すれ違いや考えの違いが生じます。しかし、それによってまた仲が深まり、信頼度も高くなります。

ところが、ここでまちがった方向に向かって仲を深めてしまうと、共に人としてまちがったことをしていることに気がつかなくなってしまいます。善悪の判断がつかず、人を見下すといった行為を平気でやってしまうようになり、そこから優越感を得ます。そしてこの行為をやめられなくなります。なぜなら人を見下すことは、自分たちの世界や考えが絶対だと安心でき、いつでも自分を守るバリアのようなものだと、私は思うのです。

この人を見下す行為がもたらす身近なものはいじめです。いじめを始める理由はさまざまです。しかし、人を見下している点では、どんなことがあろうと変わらない事実です。

これらを広く世界にあてはめてみると、「戦争」もいじめではないでしょうか。今もなお、戦争が絶えない地域があります。一方がもう一方を見下し、自国の利益のために他国を排除する考え方、自国のために他国を服従させようとするから、戦争はおこるのでしょう。もちろん、戦争がおこらないように外交術というものがあり、かげで必死に努力している人たちもいます。でも、相手国を見下し、力でねじ伏せようとする限り、絶対に戦争はなくなりません。

人を見下してしまう行為は、誰にでもあることですが、そこで、自分は人を傷つけているということに気がつかなければなりません。気がつくことができたら、その時点で相手の人格が守られ、また、自分の人格も守られたことになります。すなわち、「相互尊重」の考えがあることによって身近にあるいじめはもちろん、戦争をもなくなるということです。

シーでの体験は、ささいなことに過ぎないですが、どんなに小さなことでも「相互尊重」を大切にすることを学んだ出来事でした。

赤ちゃんポスト

第一中学校　3年　富樫 聖怜奈



みなさんは、芦田愛菜さんが主演を務めた「明日、ママがいない」というドラマを知っていますか。このドラマは、都合により親が育てられなくなった子ども達を預かる、児童養護施設が舞台となっています。「コガモの家」という児童養護施設の子ども達は、親に見捨てられたことを恨み、親の付けた名前を捨ててお互いをあだ名で呼び合っていました。私は、そのあだ名を聞いて心が痛みました。赤ちゃんポストに預けられたから「ポスト」、母親が恋人を鈍器で殴ってしまったから「ドンキ」、コインロッカーに入れられていたから「ロッカー」。そのような呼ばれ方をされたのなら、子どもはもちろん、周囲の人も傷つくのではないでしょうか。

様々な家庭や親の事情で児童養護施設に預けられてしまう子ども達の姿を描いたこのドラマは、様々な問題点が指摘されていました。

とても衝撃的なドラマの内容ですが、これが日本で現実に起きていることなのです。ドラマでも問題になっていた「赤ちゃんポスト」は、日本で熊本県熊本市に一つだけ設置されており、「こうのとりのゆりかご」と呼ばれています。設置をした慈恵病院では一人でも多くの子どもの命を救うためだと説明しています。実際に、設置から七年間で、101人もの子どもが預けられ、救われたのです。こうした施設を、日本国内にもっと設置するべきなのか、それとも無くした方がいいのか、そんな議論もされているのです。

私は、「赤ちゃんポスト」の設置に賛成です。自分の子どもをポストに預けることは、良いことではありません。でも、ポストが無ければこの子は死ぬのです。その尊い命を捨てる事に罪悪感を感じない親はいないと思います。しかし、その子がより良い環境の中で、健やかに成長してほしいという願う優しさがあるからこそ、ポストに預けるという選択をしているのだと私は考えます。

今、日本では夫婦の離婚件数が増加しています。また、結婚をしないで子どもを産む、いわゆるシングルマザーも増えています。母親だけで子どもを育てるためには、当然働かなくてはなりません。けれども、預ける施設が不足していて、ニュースでもよくとり上げられています。保育所に預けたくても、定員がいっぱいで預けられない待機児童は、2012年の調査で4万6千人を超えるそうです。母子家庭の母親にとって、非常に生活しにくくなっていることが、日本の問題だと思います。

少子高齢化が叫ばれている日本では、子どもを育てやすい環境を整えていくことがこれからの大きな課題だと思います。そのためにも、まずは働きながら子どもを育てられるように保育所などの福祉施設を増やしていくことが必要です。実際に横浜市では認可保育所を増やし、待機児童ゼロを達成したそうです。こうした取り組みを見習い、日本全国に広げていってはどうでしょうか。

また、子どもを産むための費用を国が負担したり、育児家庭の税金を控除したりといった、金銭面での支援も必要だと思います。これらを実現させることで、より子どもを産み育てようとする家庭が増えるのではないでしょうか。

「明日、ママがいない」というドラマでは、児童養護施設への差別や偏見、いじめを生むのではないかということが問題になりました。でも子どもは生まれてくる家庭を選ぶことはできないんです。何処に生まれ育った子ども達も幸せに暮らすことができる社会をつくっていくことが未来に生きる私たちの務めだと思います。

（次号では、小学生の部を紹介します）



みんなで応援しよう！

がんばれ!! 喜多方市チーム

第８回市町村対抗 福島県軟式野球大会

チームの初戦は９月15日(月)

第８回市町村対抗福島県軟式野球大会は９月13日から10月５日まで、郡山市開成山野球場、福島市あづま球場、本宮市しらさわグリーンパークで行われます。大会には県内全59市町村が参加し、熱戦が繰り広げられます。是非、喜多方市チームに市民の皆さんの温かい応援をお願いします。

合同練習などでチームの結束力と実力を強化

本市チームは、６月から合同練習や練習試合を重ね実力をつけてきました。今後も、さらに個人の実力アップとチームの結束力を固め、大会本番に臨みます。

喜多方市チームの初戦は９月15日第４試合(開成山)で双葉町と対戦します。



喜多方市チームの試合(予定)

喜多方市チームの試合(決勝戦まで)は、次のとおり６試合が予定されています。

- ９月15日(月)午後１時
- ９月21日(日)午後１時
- ９月27日(土)午前10時
- 10月４日(土)午前11時30分
- 10月５日(日)午前10時(準決勝)
  午前11時30分(決勝)

昨年以上の成績を目指します



喜多方市チーム
監　督
青山光男さん

今年は６名の新しい選手が加わり、選手たちの個性を引き出しながら、のびのびとプレーできる楽しい野球をさせたいと思います。

また、今年は本市チームが開会式での選手宣誓を引き当て、主将の猪俣選手がその大役を担います。一生懸命頑張りますので、市民の皆様の熱い声援をよろしくお願いします。

喜多方市チーム選手団の皆さん(敬称略)

区　分		氏　名	所属チーム名
代　表		菅沼健仁良	喜多方野球協会
代表補佐		小椋　幸五	喜多方野球協会
監　督		青山　光男	元喜多方商業監督
コーチ		岩瀬　洋一	喜多方市役所
		鈴木　正一	喜多方野球協会推薦
マネージャー		野辺　善光	宮川イーグルス
スコアラー		村岡　武幸	コープあいづ野球部
1	投手	大金　進輔	広域消防署
2		亀岡　匡崇	ラッキーストライク
3		黒沢　圭太	マッドオウル
4		堀川　貴広	飯塚病院野球部
5		渡部　風太	竹田病院野球クラブ
6		大塚　優希	ラッキーストライク
7	捕手	遠藤　達矢	宮川イーグルス
8		田崎　大輔	ラッキーストライク
9		物江　　将	飯塚病院野球部
10	内野手	目黒　大樹	飯塚病院野球部
11		猪俣　昌也	竹田病院野球クラブ
12		原　　道夫	宮川イーグルス
13		佐藤　仁志	三菱伸銅
14		長沢　茂充	ＳＴＫ
15		會田　頼孝	喜多方ボーイズコーチ
16		渡部　将山	会津オリンパス
17	外野手	黒沢　孝弘	グラフティーズ
18		新谷　正樹	宮川イーグルス
19		蓮沼　優介	ＳＴＫ
20		秋山　大樹	飯塚病院野球部
21		佐藤　親一	会津信用金庫
22		五十嵐裕幸	広域消防署
23		星　心太郎	ラッキーストライク
24		馬場　晃平	ラッキーストライク

鳥獣被害をなくそう！



の収穫期には、さらに出没の増加が予想されます。

市や関係機関のサポートを受け、地域ぐるみで被害対策を進めていきましょう。

被害2　農作物被害が拡大し、農業の営みも不安になった。

対策２　地域の環境整備を行い、侵入できない環境を整える。

地域の環境を再点検したら、野生動物が侵入しやすい環境になっていた。収穫しない柿や栗の木、自宅付近に放置された野菜クズ、手の届かない山際の雑草…。まずは、地域の皆さんができることから、計画的に実行していくことが大切です。

サポートその２　クマ用、サル用電気柵の貸出し

市では、クマやサルが侵入しない地域づくりを支援するため、電気柵の貸出しを行っています。これは、電気柵がクマ、サル対策に、高い有効性があることを認識していただくためのものです。電気柵は行政区に、無償で貸出し、使用する乾電池も支給します。



下岩崎行政区に設置されたクマ用電気柵

被害4　農作物被害が収まらず、人身被害の恐れがある。

対策４　有害鳥獣捕獲隊による捕獲・駆除

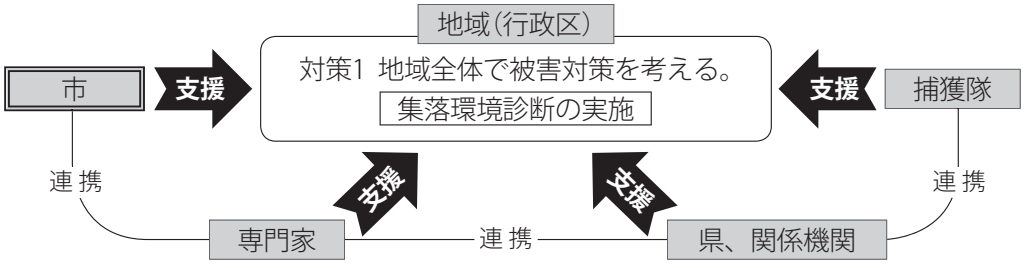
野生動物により、市民生活に関わる被害や農作物被害が生じていて、環境整備や花火による追い上げなど被害対策を実施しても被害が防止できない場合、許可を受け、箱わなによる捕獲を試みます。しかし、箱わなはエサで誘引し捕獲するため、被害を与えている動物以外の野生動物も寄せ付けてしまう場合もあります。このため、箱わなによる捕獲は、最終手段であり、地域の皆さんの理解なくしては実施することができません。

ポイント

被害対策は、個々の対策ではなく、地域ぐるみで実施しましょう。

有害鳥獣による被害対策を、個人で行うことは労力的、経済的に難しいものです。地域ぐるみの被害対策を進めるためには、地域住民の皆さんが、野生動物の生態や対策方法などについて理解し、発生する原因や対策の共有化が大切です。また、他地域や捕獲隊、関係機関との連携した総合的な対策も必要です。

市では、こうした地域ぐるみで被害対策に取り組む行政区を積極的に支援し、農業の営みある安心で安全な住みよいまちづくりを進めています。有害鳥獣被害対策については、お気軽にお問合せください。



特集 地域ぐるみで有害

市内各地で、クマやサル、イノシシなどによる農作物被害や目撃が多発しており、これからの秋

有害鳥獣から身を守り、地域の皆さんがいきがいを持って、農業を営める環境を維持するため、

被害1 大切に育てた野菜が、野生動物に荒らされた。

対策１　野生動物の生態を知り、対策をみんなで考える。

畑を荒らしたのはクマ？サル？イノシシ？　地域に出没する野生動物によって、対策が異なります。まずは、相手をよく知ることが大切です。そして、その野生動物から見た地域の環境を点検し、被害が発生する原因や対策を地域の皆さんで話し合いましょう。

サポートその１　集落環境診断の実施

市では、野生動物の生態や被害対策の専門家を招いた「集落環境診断」の実施を進めています。「集落環境診断」は、専門家や市および県の担当者と地域の皆さんが、これからの対策について話し合う勉強会です。地域の皆さんの力ですぐにできる対策と、できない対策を話し合い、すぐにできる対策から計画的に進めていくための、大きな一歩となります。



駒形地区での集落環境診断（7月30日開催）

被害3 環境整備を実施したけれど、被害が収まらない。

対策３　野生動物を山に追い帰す。

クマやサル、イノシシなどの野生動物は、本来、奥山に暮らし、人間と住み分けをしてきましたが、民家近くまで侵入してくる野生動物は、そこが「美味しい食べ物がある場所」「安全な場所」として認識し、生息範囲となってしまいます。クマやサルを山に追い帰し、『わが集落はお前たちの来る場所ではない』ということを知らしめるためにも、花火による追い上げを計画的に実施することが重要です。

サポートその３　追い払い花火の提供

市では、行政区が実施する計画的な野生動物の追い上げに対し、動物駆逐用煙火(追い払い花火)の提供を行っています。

ただし、打上げを実施する方は、市や県が主催する研修会を受講するなど、正しい使用方法を身につけていただく必要があります。

※注意！動物追い払い花火による事故が多発しています!!
　追い払い花火の使用は、専用の金属ホルダーを地上に固定し、安全な距離を確保してから、使用してください。



岩月町で開催された追い払い花火の研修会

問　喜多方市有害鳥獣対策本部(事務局：生活環境課環境推進班)
☎(24)5261　または各総合支所住民課まで

9月はがん征圧月間

「がん検診」ただいま実施中

～自分のために　大切な人のためにがん検診を受けましょう～

がんは「他人ごと」ではありません！

「自分は大丈夫」「がんにはかからないだろう」という思い込みは禁物です。

日本人の2人に1人が「がん」になるといわれ、喜多方市では、死亡者の約4人に1人はがんで亡くなっています。男女別の主ながん死亡をみると、男性は、胃がん・肺がん・大腸がん・前立腺がんが上位を占めており、女性では、大腸がん・胃がん・膵臓がん・肺がんが上位となっています。

がんは治せる時代です！

がんは、早期のうちに発見して治療すれば、治癒率が高くなるといわれています。しかし、ほとんどの場合、早期のがんには自覚症状がないため、がんを発見するためには定期的な検診の受診が最も効果的です。

早期発見のための、がん検診とは?

喜多方市では、次の6種類のがん検診を実施しています。

がん検診の種類と対象年齢

◆胸部検診：20歳以上
◆胃がん検診：20歳以上
◆大腸がん検診：20歳以上
◆前立腺がん検診：50歳以上の男性
◆子宮頸がん検診：20歳以上の偶数年齢の女性
◆乳がん検診：30~39歳の女性、40歳以上の偶数年齢の女性

がん検診の受診方法

がん検診は、集団検診（検診バスによる検診）と施設検診（市の指定医療機関による検診）があります。

◇施設検診（市の指定医療機関による検診）は11月29日（土）までです。必ず事前予約をして受けてください。

◇乳がん集団検診該当の方で施設検診を希望する方は、受診券の差し替えが必要です。事前に保健課☎（24）5223にご連絡ください。（検診は9月30日（火）までです）



厚生労働省がん検診イメージキャラクター「けんしん君」

実施期間中は、お得な料金で受けられます。

例）胃がん検診を集団検診（保健センターなど）または施設検診（指定医療機関）で受診した場合。

◎ 集団検診：~~4,428円~~※ ⇨ 自己負担　800円

◎ 施設検診：~~13,580円~~※ ⇨ 自己負担 2,500円

※喜多方市の検診委託料金

詳しくは、「喜多方市健（検）診のご案内」（6月16日配布のだいだい色のチラシ）または市のホームページをご覧ください。

古くて新しい病気、それが「結核」

本市でも毎年新規患者登録があり、平成24年には新規10人の報告がありました。

2週間以上続くせき、微熱、体重減少などの症状がある場合は、医療機関を受診しましょう。

症状がなくても、年に1度の検診が非常に大切です。市で実施の胸部検診は、肺がんだけではなく、結核の検診にもなっていますので、積極的に受診してください。

地区の集団検診の他、医療機関での施設検診(指定医療機関に要予約)があります



結核予防週間9/24⇒9/30

結核についての正しい知識と予防の重要性について知識を深める1週間



「きづく つなぐ まもる」

警察庁の発表によると、平成25年の全国の自殺者数は2万7283人と2年連続で3万人を下回っています。しかし、福島県においては、若干増加している状況にあります。

自殺は自由な意志や選択ではなく健康問題、経済・生活問題など様々な要因が複雑に関係し心理的に追い込まれた末の死と言われています。

また、うつ病などこころの健康問題が大きく関係しています。うつ病について正しく理解し、早くきづき、適切な医療につなぐことは、自殺を防ぐことにつながります。

9月10日～9月16日は
自殺予防週間です

健康増進普及月間
9月1日～9月30日

1に運動
2に食事
しっかり禁煙
最後にクスリ

～健康寿命の延伸～

ほっと☆きらり通信







喜多方市 地域・家庭医療センター
「ほっと☆きらり」
センター長　武田　仁

おたふくかぜワクチンで予防できる、ムンプス難聴

みなさんこんにちは、今回は予防接種の話です。日本は最近まで「ワクチン後進国」と言われるほど予防接種に関して遅れていたのですが、この数年間でずいぶん状況は変わりました。ヒブ、小児肺炎球菌、不活化ポリオなど、他の先進国ではずいぶん前から普通に打てていたワクチンが、日本でもようやく普及しました。また今年の10月から、小児の水痘ワクチン、高齢者の肺炎球菌ワクチンが定期接種化される見通しで、子どもにとっても高齢の方にとっても朗報です。

少しずつ充実してきた日本の予防接種ですが、紆余曲折あり、現在はおたふくかぜの予防接種が定期接種としては行われていません。おたふくかぜの重大な合併症で、あまり知られていないのが、ムンプス難聴です。おたふくかぜにかかると耳の下にある耳下腺が腫れますが、ムンプス難聴は耳下腺が腫れる前後の数日間に起こります。ムンプス難聴は片方の耳に高度の難聴を起こし、有効な治療法はほとんどありません。以前は比較的稀な病気と考えられてきましたが、数年前に日本で行われた調査では、おたふくかぜにかかった人の約千人に1人の割合でムンプス難聴が認められたという報告もあります。また、おたふくかぜにかかっても症状が出ない、いわゆる不顕性感染の場合でもムンプス難聴は起こるため、他の難聴と誤診されている場合もあります。難聴以外の症状はないことが多く、おたふくかぜのずいぶん後になって難聴がわかることも多いようです。ムンプス難聴をはじめ、髄膜炎や睾丸炎など、おたふくかぜの重い合併症から子どもを守るためにも、1歳になったらおたふくかぜワクチンを接種しておくことがお勧めです。

生涯学習の広場

行ってみよう！ 見てみよう！ やってみよう！

生涯学習推進特別事業

会津まほろば街道めぐりと三島神社太々神楽の鑑賞

●**日時**　9月9日(火)

《第1部》

『会津まほろば街道めぐり』

○時間…午後1時～5時

○定員…先着25人

○集合場所…上三宮遊樹館
（午後0時45分集合）

○見学地…慧日寺～土津神社～磐椅神社～猪苗代城跡

○案内…志村和子氏(会津まほろば里人の会会長)

《第2部》

『三島神社太々神楽鑑賞』

○時間…午後7時30分～9時

○場所…上三宮町三島神社境内



※申込方法など詳しくは、上三宮公民館へお尋ねください。

問申 **上三宮公民館**
☎(22)0912

全国大会等出場補助金をご活用ください

市民の体育・スポーツの普及奨励と技術の向上を図るため、全国規模および東日本規模で行われる各種体育・スポーツ大会に参加する選手などに補助金を交付します。

●**対象の大会**

①全国大会呼称の体育・スポーツ大会

②都市対抗等全国規模による大会および東日本規模の各種大会

③②に掲げるもののほか、特に喜多方市教育委員会が認める大会

※ただし、喜多方市小・中児童生徒各種大会出場補助金交付要綱により補助金を交付された場合を除きます。

●**補助額**　大会の個人戦または団体戦に参加する選手等に1人につき1万円を補助します。

●**対象者の条件**　大会に参加する選手および監督などで次の条件を満たすものとします。

①市内に住所を有している者

②市内の学校、企業等に在籍し、特に教育委員会が認めた者

●**申請の方法**　補助金交付申請書(市ホームページよりダウンロード可能です)に次の関係書類を添付し、大会が開催される日の5日前までに、生涯学習課スポーツ振興係へ提出してください。

○大会開催要項

○収支予算書(任意様式可)

○その他必要と認める書類(大会参加申込書など)

※詳しくは、市ホームページをご覧いただくか、お尋ねください。

問申 **生涯学習課 スポーツ振興係**
☎(23)2116

第1回　喜多方こども駅伝大会参加者募集

今年度、新たに小学生を対象とした駅伝大会を開催します。

仲間とチームを作り、一本のたすきをつなぐ喜びを味わってみませんか！市民の皆さんの参加と、会場での温かい声援をお願いします。

●**日時**　10月4日(土)

○開会式…8時30分

○競技開始…9時30分

●**会場**　押切川公園スポーツ広場および西側道路

●**競技部門**

①小学生3・4年女子の部

（600メートル×5人）
②小学生3・4年男子の部
（600メートル×5人）
③小学生5・6年女子の部
（800メートル×5人）
④小学生5・6年男子の部
（800メートル×5人）

●**チーム編成**　1チーム当たり選手5名、補欠1名、監督1名



●**参加料**　1チーム　1000円

●**申込方法**　各小学校などに備え付けの申込書に記入し、参加料を添えて9月22日(月)までお申し込みください。

問申 生涯学習課 スポーツ振興係
☎(23)2116

屋内プールの利用助成事業をご活用ください

喜多方市民プールの供用期間外に指定の屋内プールを利用した場合、利用料金の一部を助成して、市民の皆さんの健康・体力づくりを応援します。

●**対象者**　小学生以上の市民

●**期間**　平成26年9月8日～平成27年3月31日

●**指定する屋内プール**
会津若松市コミュニティプール（会津若松市河東町南高野字金剛田1）



●**助成額**　会津若松市民料金との差額を助成します。
○大人…1回270円
○高校生…1回210円
○小中学生…1回110円
※参考…会津若松市民以外の方の利用料金（2時間）
○大人…1回810円
○高校生…1回640円
○小中学生…1回320円

●**手続き**
助成事業を活用したプール利用の際には、利用者カードの提示が必要となりますので、事前に手続きをお願いします。申請は、印鑑持参のうえ、生涯学習課または各総合支所教育課で手続きをしてください。
※詳細については、市ホームページをご覧いただくか、お尋ねください。

問申 生涯学習課 スポーツ振興係
☎(23)2116または各総合支所教育課

勤労青少年ホーム新規講座「パンづくり講座」受講生募集

家庭でも簡単に作れるパンづくりに挑戦し、焼きたてを食べてみませんか。



●**日時・内容**
9月28日(日)「パンづくり講座」午前10時～正午

●**講師**　鈴木　由紀江先生

●**費用**　材料費　1000円

●**参加対象**　18歳以上35歳までの喜多方市在住の方、もしくは通勤されている方。

●**定員**　10人

●**申し込み**　9月5日(金)より、募集を開始し、定員になり次第締め切ります。
※詳しくは直接お尋ねください。

問申 勤労青少年ホーム
☎(22)1403

第8回 喜多方市内一周駅伝競走大会 開催延期のお知らせ

9月21日(日)に開催を予定しておりましたが、諸般の事情により開催を延期することとなりました。

新たな開催日につきましては広報きたかた「お知らせ版」9月号でお知らせいたします。

問申 生涯学習課 スポーツ振興係
☎(23)2116